



会長 田中 洋史
広報委員長 吉本 恭子
事務局：高岡市教育委員会
生涯学習・スポーツ課内
TEL (0766) 20-1227

単P紹介

単位PTA(単P)の活動を紹介します。

南星中学校PTA

会長 柿原 晃志

役員を引き受けてもらうために工夫を

南星中学校PTAでは、PTA役員を多くの保護者の皆さんに引き受けてもらえるよう一昨年度より創意工夫を重ねてきました。いくつかの工夫をご紹介します。

・会議回数の見直し
基本的な会議回数を年8回程度とし、総会資料の年間行事予定表に記載することで、各役員への周知や予定を組みやすくしている。(全体委員会1回、常任委員会7回、正副会長会議については適時開催)

・役員選出方法の見直し
各学年からの役員選出人数を設定し、立候補者がいない場合くじ引きにて選出を行う。あらかじめ立候補してもらうよう声をかけている場合もある。また、12月上旬に新2年生及び新3年生、新入生説明会時に新1年生の保護者から新役員を選出することで入学後の保護者の拘束時間を減らすことができ、名簿等の作成時間も十分に確保できる。3月には引継ぎ会を設け、委員会ごとに詳細な引継ぎ書類を作成し、スムーズに引継ぎしている。

・PTA活動内容の見直し
今年度5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、4年間行われていなかったPTA活動が徐々に再開されている。しかし、コロナ禍前の活動内容に全て戻すのではなく時代のニーズや今の生徒達に合った活動を実施できるように協議している。

今後も学校、生徒達のためになるPTA活動の実施を目指し、多くの保護者の皆さんがアイデアを出し合うことができる場にしていきたいと思ひます。

博労小学校PTA

会長 中谷健太郎

子供たちをまんやかに楽しい活動を実施

今年度の博労小学校PTAでは、年間テーマを「応援団～すべての博労っ子にエールを～」とし、様々な活動に取り組んでいます。

各学年の学年部では、親子で集い様々な「親子活動」を開催しています。今年度はミニ運動会、せっけん作り、逃走中など楽しい活動を実施しました。

専門部として「広報部」「厚生部」「児童教養部」がそれぞれの活動を実施しています。「広報部」は年4回広報紙を発行し、校下の皆様に配布しています。学校行事の様子や特集記事などを通じて学校と地域の皆様に繋ぐ架け橋となつています。「厚生部」は資源回収、ベルマーク収集を通じ子供たちの学校生活を側面から支援しています。「児童教養部」は低、中、高学年ごとに体験学習を企画し、今年度は工作教室、絵画教室、陶芸教室を実施しました。

博労小学校PTAでは常に子供たちを真ん中に置き、その周りを保護者、教職員、地域の皆様に包み込むチームワークを大切に活動を展開しています。



木津小学校PTA

会長 竹端 仁志

PTAの主催で芸能(落語)鑑賞会を開催

木津小学校PTAでは「考えて 心をかたに チャレンジ」をスローガンに教職員・保護者・地域住民が一体となり、PTA活動に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の脅威もある中で、活動は制限されつつも、先生方や地域住民の方からの尽力も賜り、親子活動や運動会といった行事も無事開催することができました。

今年度5、6年生を対象に警察署から講師を招いて「インターネット安全教室」を行いました。インターネットが普及しているなかでの危険性について具体的に教えていただき、児童が中心となりインターネットに関するルール「木津っ子ネットルール」を作成しました。

11月にはPTA主催による「芸能鑑賞会」を行いました。落語家の三遊亭良楽さんをお迎えして、下学年、上学年の2部に分けて内容の異なる落語を披露していただきました。児童も本物の落語家による話に聴き入り楽しい時間を過ごしていました。

今後とも学校・地域・PTAが連携して協力し合い、活動に取り組んでいきたいと思ひます。



南条小学校PTA

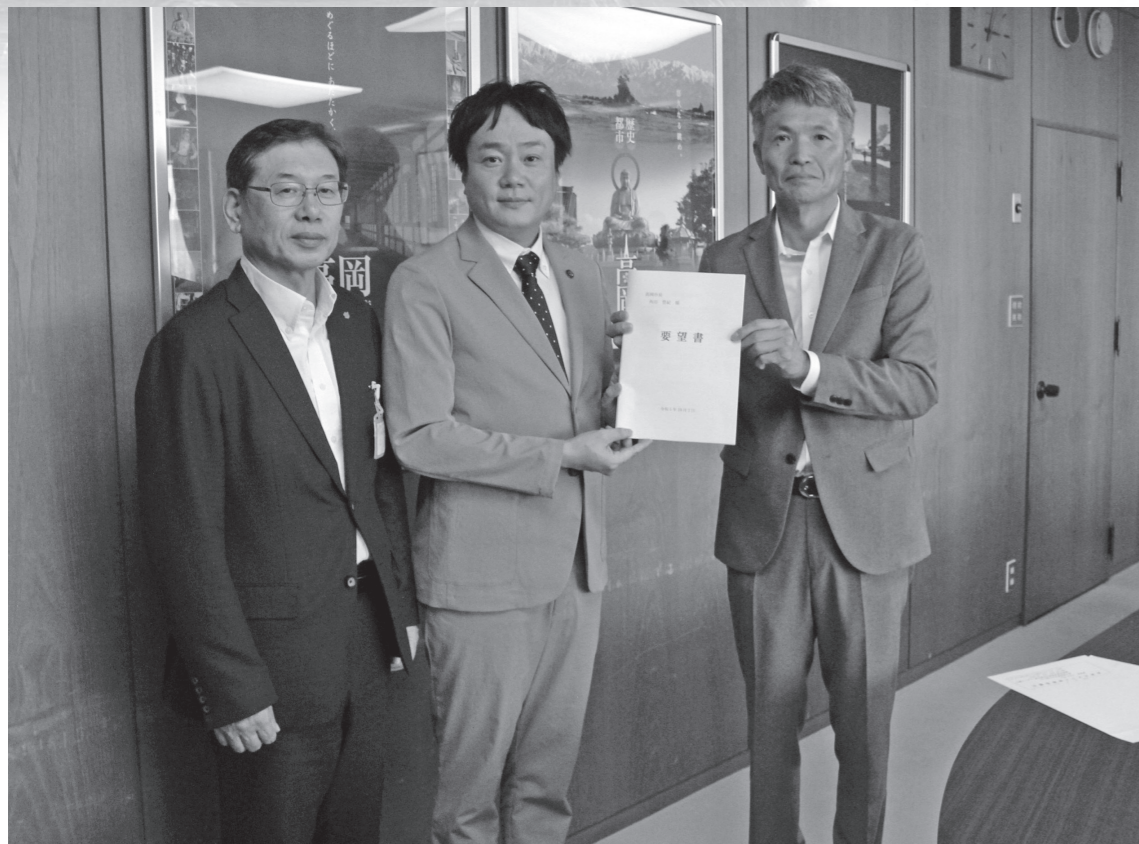
会長 吉岡 満雄

PTAの催しを再開し思い出に残る学習発表会

昨今、子供たちを取り巻く環境が著しく変化し、なかなか思いどおりのPTA活動を行っていきませんが、子供たちの健全育成につながるよう、地域住民、教職員、保護者の三者が協力し、今、何ができるかを考えて、活動に取り組んでいます。

今年度の学習発表会では、教職員の方々の理解を得て、教室をイートインスペースとして開放していただき、児童同士、親子、家族で昼食を楽しんでもらいました。またPTAとして、体験・ゲーム、バザー、誘導等を行いました。コロナ禍前を知る役員が少なくスムーズな運営とはいきませんでした。教職員と保護者の方々のご協力をいただき、思い出に残るよい学習発表会になったと思ひます。今後も、子供たちを第一に考えて、三者それぞれがしっかりとコミュニケーションを取り、一丸となって活動に取り組んでいきたいと思ひます。

末筆ではございますが、能登半島地震により、被害に遭われた皆様の安全と被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。



近藤教育長(左)と角田市長(中)に、要望書を手渡す田中会長=高岡市役所

角田市長、近藤教育長に市P連からの要望書を提出

【要望内容】

1. 教育環境関連
 - (1) 児童生徒に寄り添う教育の推進及びスタッフの拡充
 - (2) 教育の質の向上及び教員の多忙化解消に向けた人材確保
 - (3) ICT教育の推進・充実
2. 施設関連
 - (1) 施設のセキュリティ強化
 - (2) 通学路の安全確保及び緊急時対策
 - (3) 授業を受ける教室全てのエアコン設置
3. その他
 - (1) 統合における必要な財源の確保
 - (2) 学校での冷房の使用について
 - (3) 部活動について(地域部活動移行に伴い地域格差がなるべく生じないための配慮、丁寧な情報発信など)

十月二日(月)、田中会長から角田市長、近藤教育長あてに、高岡市内全てのPTAからいただいた要望書を提出しました。高岡市の令和六年度予算編成の参考にしていただけるよう、早めの時期に提出しています。

角田市長からは、「要望書はすべて目を通させていただきます。PTAの方々と話をさせていただくことで、私の主張、政策が変わってきている部分もある。毎年、いろいろな団体から要望書の提出があるが、このように製本された形で受け取る要望書は、今年度はこれが最初である。しっかりと調査、検討していただく力強い言葉をいただきました。また、近藤教育長からは要望書に挙げたいいくつかの事柄について、直接、考え方や方針を伺うことができ、予算の大きな要望などは実現するまでに時間がかかることもありますが、これからの子供たちのためにしっかりと要望を伝え続けることが大事だと考えています。

なお、提出時には、高岡市教育委員会の皆様にもご同席いただいたほか、市P連副会長の小林、大坪、浜野、鶴井、総務委員長 澤田、広報委員長の吉本が出席しました。

総務委員長 澤田 純一

新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、学校やPTAの行事も少しずつ実施できるようになってきました。そんななか、今年度は、「広報たかおか」は、今年度の発行回数を二回から三回に増やし、一学期に一度第一号を発行することで早期の方針共有を図りました。また、市P連の活動内容、単Pや各委員会の工夫を伝える広報誌を目指し、少しでも会員の方々の参考になれば幸いです。

最後にありますが、能登半島地震で被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

(戸出東部小・松能、戸出西部小・五嶋)

広報たかおか(169号)編集スタッフ

委員長	吉本 恭子 (太田小)
副委員長	堀井 翔太 (横田小)
表紙・編集後記	松能 智保 (戸出東部小)
五嶋 英治 (戸出西部小)	
活動報告	吉野順一郎 (博労小)
白井 敬二 (木津小)	
百恵 (南条小)	
単P紹介	光太郎 (南星中)
木下 悟 (戸出中)	
副会長	黒田 隆大 (高陵小)

編集後記



家庭教育委員会

子供と参加できる！ イベント型の親学び講座を初開催

12月9日(土)、戸出コミュニティセンターで、子供と参加できるイベント型の親学び講座を開催したところ、会員30名、児童13名に参加いただきました。

講座では、親学び推進リーダーの大橋仁美氏を講師に迎え、「親子で話そうネットルール」をテーマに、グループディスカッションを行いました。また、同時進行で、子供たちは、菅っ子メイトさん指導のもと、福岡地区名産の菅を材料に、コースター制作を行いました。不揃いの菅を隙間なく貼り付ける作業の難しさを体験し、世界に一つしかないオリジナルのコースターを作ることができました。

講座後半には、コースター作りを終えた子供たちにも講座に参加してもらい、親子でネットルールについて話し合いました。さらに、交流会を行い、親同士や親子のコミュニケーション・意見交換を図りました。

アンケートでは、9割以上の方から来年度も参加したいとの回答があり、「保護者同士で話ができよかった」「親子間のネットルールを作るヒントになった」等の意見が寄せられました。

子供たちを交えた講座や交流会という新たな試みを取り入れ、学びの多い講座となりました。このような事例も参考に、次年度以降も多くの方々に親学びを実践していただきたいと思ひます。

委員長 田中 正康



給食・保健委員会

生産者との交流を通じ、 地場農産物への理解を深める

11月16日(木)に、たかおか地産地消推進ネットワークが主催するほ場視察研修会に参加し、(有)スタファームのニンジンほ場、直売所(あぐりっち佐野店)、クローバーファームの牛舎を見学しました。スタファームではニンジンの収穫、クローバーファームでは搾乳体験もさせていただきました。また、クローバーファームではエサには稲わらのほか、野菜の皮など本来お金を払って処分するものを利用していることや、牛糞を元にする堆肥を畑の肥料に利用することで循環が形成されているとのことをお話を伺いました。生産者との交流の機会を通じて、地場農産物への理解を深めることができました。

委員長 塚本 英明

市P連の事業報告会を開催

2月6日(火)に高岡エケールで事業報告会を開催し、60名のPTA会員に参加いただきました。市P連の年間活動実績について報告するとともに、志貴野中、西条小、国吉義務教育学校の各PTAに、新しい考えや工夫を取り入れた先進的な取組みを発表していただきました。



教育環境委員会

講演会 「休日部活動の地域移行 について」を開催

教育環境委員会では、毎年、教育環境に関する講演会を開催しています。今年度は11月14日(火)に、高岡市役所において、学校の先生方の働き方改革を踏まえ、『休日部活動の地域移行について』と題した講演会を開催したところ、98名の会員に参加いただきました。

休日部活動の地域移行は市町村ごとに取り組んでいるため情報発信が難しいこともあり、まだ情報が少ない状態です。多くの保護者が不安を感じている状況ではないかと考え、今年度の講演会のテーマとしました。講師は高岡市教育委員会教育次長・学校教育課長の岩田正弘氏にお願いし、現在どのような状況なのか、今後どのようにしていくのかなど、お話しいただきました。

講演会後のアンケートでは多くの参加者から休日部活動の地域移行について理解が深まったとの回答を頂いた半面、地域移行にはまだまだ多くの課題が残されており、具体的な課題の解消方法の説明をもっと聞きたかったという声もありました。今後も、高岡市教育委員会に対して、進展があり次第、きめ細かい情報提供をお願いしていきたいと思ひます。

委員長 吉井 忍

東海北陸

PTA東海北陸大会で
PTA協力隊などの活動を報告

10月21日(土)に福井県で開催された「日本PTA東海北陸ブロック研究大会」に参加し、「地域連携」をテーマにした分科会で発表させていただきました。国吉義務教育学校は県内初の義務教育学校であり、当校ができるまでの経緯や現在の学校生活、またPTAとしてのコロナ禍での課題、地域の方と協力して開催した「地域防災研修」の様子などを報告しました。また、当PTAでは学校統合の際に「PTA協力隊」を新設しました。これは、枠組みにとらわれない自由な企画運営を楽しみながら行いたいという思いから、PTAのOBや地域の方も含めたメンバーで活動を行おうと設立された組織です。これまで、学習発表会でのチェキ撮影企画や、駐輪場のペンキの塗り替えを行ってきました。子供たちや保護者の意見をアンケートなどで聞き、活動を検討していくこととしています。当初はコロナ禍で人数や活動の制限があったことから、PTA会員だけで活動してきましたが、今後はOBや地域の方へ拡大していく予定です。この活動を報告したところ、「ぜひ自分たちのPTAでも導入したい」などの感想も頂きました。また、様々な地域で学校統合の話が出ており、会場からは統合するメリットや子供たちの生活についての質問もありました。

今回、発表にあたり、県や市のPTAや地域の方から様々な意見を頂き、改めて自分たちが行ってきた活動の意義を知ることが出来たと思ひます。今後も児童生徒・教職員だけでなく地域の方とも手を取りあい、子供たちがのびのびと成長できるように活動していきたいと思ひます。

国吉義務教育学校PTA 会長 山川 雄亮



※市P連からも同大会に17名が参加しました。

富山

富山県PTA会員大会に
多くの会員が参加

11月25日(土)、富山県PTA連合会が主催する会員大会が開催され、高岡市から約90名のPTA会員が参加しました。今回のテーマは「Home」。富山市と小矢部市の研究指定PTAからの活動報告に続き、「生きづらさを抱える子どもたちのために私たち大人ができることは？」というテーマで有識者の方によるパネルディスカッションが行われました。さらに「親は子に何を残せるのか～未来を拓く『情報編集力』の育て方、磨き方～」という演題で藤原和博氏の基調講演がありました。県内各地のPTA会員の皆さんとともに、改めて、PTAの意義や、子供たち・先生方・保護者の方々にとって、「安心できる居心地の良い居場所」を考える機会になりました。



全国

日本PTA全国研究大会
広島大会の研修に参加

8月25日(金)、26日(土)に広島県で日本PTA全国協議会等が主催する全国研究大会が開催され、市P連からも9名が参加しました。初日は分科会、2日目は全体会が開かれ、人工知能研究者・黒川伊保子氏による「心のトリセツ」と題した大会記念講演がありました。

不確実な激動の未来を生き抜く力(知識・技能、判断力、表現力、人間性、学びに向かう力)を育成したい、そのために家庭・学校・地域をつなぐ唯一無二の存在であるPTAの役割を改めて認識する場にしたいという思いが込められた大会でした。今後のPTA活動に反映させていきたいと思ひます。

